

潤多摩

「外国人は多摩地域に来たる？」



多摩学班
最終発表



箱根合宿以降の活動

★学部生と留学生対象のアンケート分析

→多摩大学在学学生対象アンケート

→多摩大学への留学生対象アンケート

★インタビュー調査や実地調査

→多摩大学卒業生の章嘉権様、潘文浩様

→行政書士 児玉先生

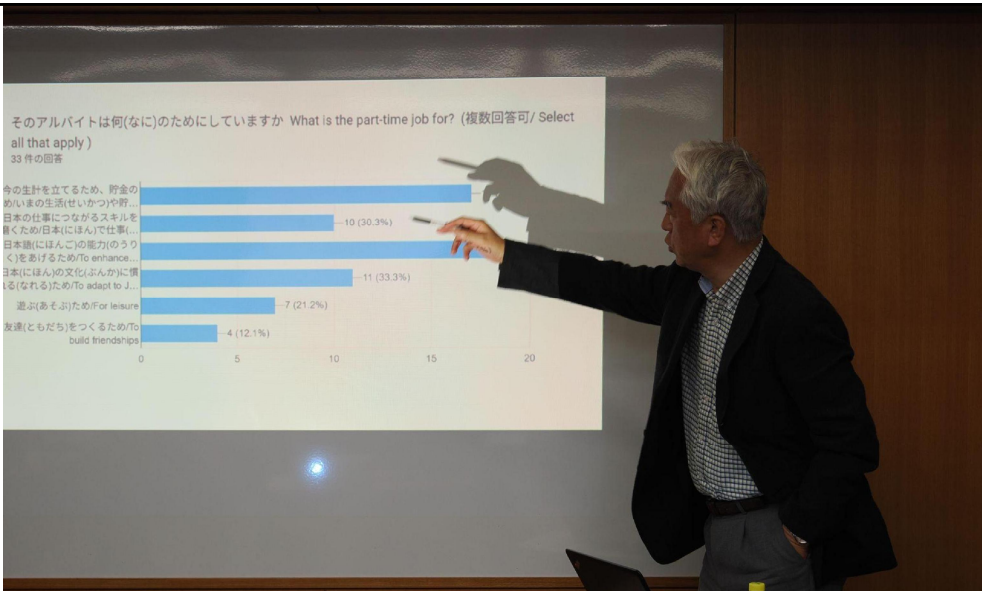
→多摩大学教授バートル先生

→西葛西ディワリフェスタ

→株式会社キューズワン様

→『潤日』著者である舛友雄大氏

★論文執筆とそのためのディスカッション



アンケート分析

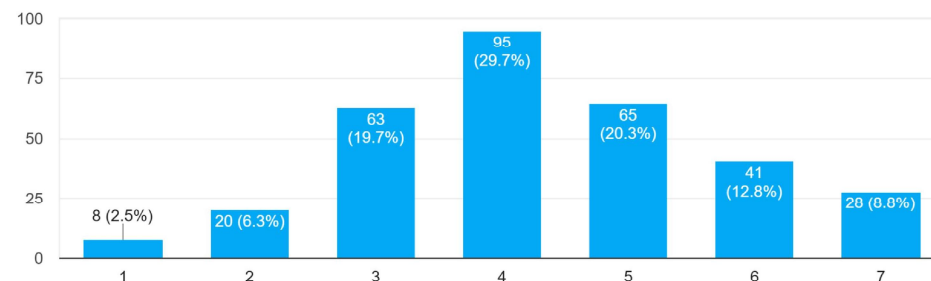
学部生と留学生対象アンケートの分析

アンケート結果(学部生)

留学生への評価 Average Rating 4.33

留学生の印象について教えてください(7が最も良く、1が最も悪い)

320件の回答



アンケート結果(学部生)



留学生への評価 Average Rating 4.33

・全体を通して、中央値よりやや高い結果に中間値とされる、3から5に多くの票が集まった

各キャンパスの特徴

中央値の数にキャンパス差はなし

多摩キャンパス：低い評価(1~3)の票が多い

湘南キャンパス：高い評価(5~7)の票が多い

日常的な外国人との交流の機会の多さが

留学生に対しての印象に大きく影響を与えていると推測

5

アンケート結果(留学生)



卒業後の進路に関する質問で

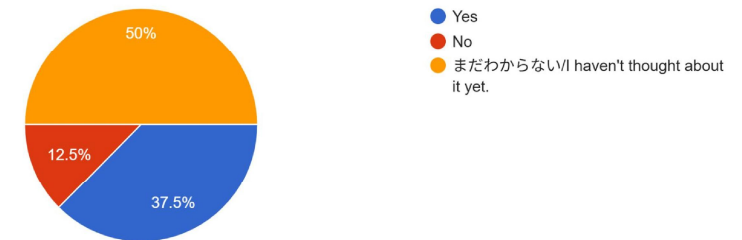
125人中72人が日本に残りたいと回答

その回答者に対して**多摩に残りたいか**と質問

37.5%、27人が多摩地域に残りたいと回答

日本(にほん)のなかでも多摩(たま)に残りたい(のこりたい)ですか? Is the Tama area where you'd prefer to stay in Japan?

72件の回答



6

アンケート結果(留学生)



質問結果より 50%はまだわからないと回答

半数が日本に残りたいと回答していながら、
どこで暮らしたいかは明確になっていない状況
→この層をどう多摩地域に引き込むかがカギに

各キャンパスの特徴

回答結果に大きな特徴、差は見られない

多摩地域に残りたいとの回答はややSMISの方が多い

日常的な外国人との交流の機会の多さは

留学生の日本に対しての印象、日本に残りたいかどうかに対して決定打にはならず大きな影響を与えないと推測

7



インタビューや現地調査
多摩地域での共生の契機を探る

8

インタビューや現地調査



- ・若手中国人材2名（広東財経大学・多摩大学の先輩）
- ・日本語専攻 → 交換留学 → 帰国 → 東大大学院進学
- ・日本社会への定着プロセス分析



9

インタビューや現地調査



来日動機

韋さん：言語や教育システムが主
日本語への**好感**が来日への原動力に
中国の点数至上主義教育への**反発**
日本文化、アニメへの興味と親和性
試験のための英語学習に対して嫌悪感

潘さん：文化や思想面が主
日本文化の魅力が留学意欲に
作品『ガンダム』を通しての思想的関心
日本語を理解したいというモチベーション
日本のウェブサイトへのログイン経験

10

インタビューや現地調査



東京大学大学院選択の理由→両者の共通点

中国：統一試験・競争激化・点数中心

日本：研究計画書や面接重視

「何を覚えたか」より「何を研究したいか」
日本の大学院試験の方針に信頼感を覚える
ポテンシャル評価 → 公平な再チャレンジの場

東大選択の理由：

韋さん：国内外での評価・キャリア有利

潘さん：ロールモデルの存在・競争倍率

11

インタビューや現地調査



住まいの選択理由に関して

韋さん：合理性重視

家賃補助制度の活用で二子玉川に
通勤の利便性(乗り換えなしで職場まで一本)

生産効率や資産価値を重要視した居住地域の選択

潘さん：ライフスタイル重視

現在は浅草橋→将来は北千住に住みたい

社会人サッカーチームの本拠地筑波へのアクセス

通勤時間も「楽しみの一つ」という価値観

自然の多さ、景観を重要視

生活の質(QOL)を優先した居住地域の選択

12

インタビュー対象のお二方からのアドバイス

- ①外国人を支えるコミュニティの形成
→外国人同士で相談、支えあいのできる環境
- ②外国人が長期的に地域に残りたくなるような施設
→インターナショナルスクールや日本語学校
- ③多摩地域の広報活動の更なる促進
→SNS等を用いた多摩地域の魅力の発信
e.g.) 豊かな自然とアクティビティ
アニメやドラマの撮影地や聖地としての多摩地域

13

法人向けの在留資格申請業務を行われている 児玉良介先生 (東京多摩行政書士事務所所長)

- ・ 普段は都内外資系金融機関にて勤務
- ・ 職業柄行政とのやり取りや外国人材との交流が多く、そこから行政書士を志す
- ・ 現在はWワークで行政書士と金融機関勤め



14

36種ある外国人在留資格の中でも「技術・人文知識・国際業務」(通称：技人国)+「経営・管理」の2つの観点で質問

上記2項における在留資格取得支援業務を行う上で、**大きな障害**となっていることは何か

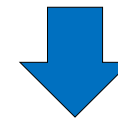


以上の「資格適合」が重要になる中で専門性を伴わず要件審査に引っかかるという大きな障害となる。
※「現業」に該当する。

15

在日外国人のキャパシティに関する質問

在留外国人が増加傾向な中、受け入れる側の**キャパシティの現状**がどうなっているかの所感



キャパシティには余裕がある。

在留外国人を扱いたいと考えている行政書士や弁護士は年々**増加傾向**にあり手続き的なキャパシティも増加している。

16

インタビューや現地調査



多摩大学教授 巴特尔(バートル)先生 →多摩地域の富裕層としてのインタビュー

1968年内モンゴル出身
モンゴル族
内蒙古師範大学卒業

東京大学大学院総合文化研究科
地域文化研究専攻修士課程修了
同博士課程単位取得満期退学
(学術博士)



17

インタビューや現地調査



▶多摩大学教授 巴特尔(バートル)先生 多摩地域の選択理由:

職場があるから。以前の居住地選択理由も同様
府中は自然も豊かで人が温かい。

近所の方と農業を通じての交流もできている

日本のお祭り等のイベントに関して:

日本語がわからない人でも楽しめるイベントはある
中国人は本場の職を楽しむことで故郷を感じられる
日常的なご近所付き合い等あれば参加しやすい

18

インタビューや現地調査



西葛西ディワリフェスタ

チャンドラニさん(左写真:中央、右写真:右)
1978年来日 西葛西ディワリフェスタの主催者
ア Nil・パンガンティさん(右写真:左)
自称60歳、日本への留学経験後Microsoft等で勤務



19

インタビューや現地調査



チャンドラニさん

- ▶なぜ西葛西に住んでいるのか
→海が近く公園が多いため**自然**がたくさんある
自国の調味料や食材などを買いそろえられる
- ▶これからも日本に住み続けたいか
→これからも**ずっと日本に残り続けたい**
- ▶なぜ多くのインドの方が西葛西に?
→やはり、異国の地に来ると**寂しい**。
だからみんな友達などの仲のいい人が欲しい

インドの方は『潤日』やほかのインタビューの結果
とは異なり、寂しいから**「みんなで一緒にいたい」**
というような考えを持っている

20

インタビューや現地調査



『潤日』著者である舛友雄大先生へのインタビュー

▶言語問題・日本語教育の重要性

→30~40代日本人と新移民は価値観が近い

▶アッパーミドルに多摩地域をアピール

新開発や住みやすさというキーワード

SNSの有効活用、教育機関の必要性



21

インタビューや現地調査



『潤日』著者である舛友雄大先生へのインタビュー

▶言語の問題が一番大きい

だからこそ我々から歩み寄ることで意外と仲良くなれたり友人になれたりする

→向こうは日本の友人が少ないことが多い

▶多摩地域に新移民を受け入れる上で足りない要素

パツと思いつくのは「学校」

小中高大、または予備校や優秀な塾があれば情報を得た新移民は流れ込んでくる

→学習環境が良いとして注目されている文京区に続くような環境整備が一つの案として挙げられる

新移民の上海や北京の方は日本人と感覚が似ている

22

インタビューや現地調査



株式会社キューズワン

企業グループ全体が抱える経営課題の解決に貢献することを目的とした会社

調査概要

企業で働くアッパーミドルのヤオさん(左写真：中央)とトウさん(右写真：左)にインタビューの実施



23

インタビューや現地調査



株式会社キューズワン

調査対象の二名：ヤオさんとトウさん

お二人とも、現在は高度人材ビザの申請中

ヤオさん：

現在はご家族を中国に残し単身で日本へ。

お子さんの教育面で、**部活動**という日本のスポーツ教育面に興味を持たれている。中国でも人気の野球やバスケットボールを子どもに習わせたい

トウさん：

中国の**政治的な面に不安**があり日本へ。

現在、東京科学大(旧称東工大)の経営工学修士二年目で幼いお子様を保育園に通わせながら仕事と学位の取得に取り組まれている。

24

インタビューや現地調査



インタビュー内容：

▶なぜ今の居住地を選んだのか、また選ぶ際のポイント

→中国人が多いと**中国にいる時と何も変わらない**、
日本にいる意味がないから少ないところをあえて選んだ

▶何が多摩地域にあれば住みたいと思えるか

→通勤の便は特に大切なため、**職場や学校**が多摩地域にあるという条件は大前提。そのうえで**レジャー施設**や**景色の良さ**、**自然の豊かさ**があると居住地に選びたくなる

調査結果からのキーワード：

- ▶**日本の教育**を子どもに学んでほしい
- ▶**日本の文化**をもっと深く知りたい
- ▶**通勤時間の短さ**が住む契機となりやすい
- ▶**レジャー施設や自然**があるとうれしい

25



最後に 多摩学班から多摩地域への提言

26

最後に



多摩地域への提言

多摩地域の現状：春学期中間発表スライドより
人口推移として近年、老年人口が年少人口の2倍を超える
多摩市でも平均年齢の向上で**過疎化**が見込まれている
また近年は志望者数が死亡者数が出生者数を上回っている
人口減少に反して**外国人の人口割合は増加傾向**

▶外国人が人口減少で人手不足も懸念される多摩地域の 担い手のひとつになるのではないか

増加傾向ではあるが東京中心部と比較するとまだまだ
人数は多くなく、受け入れ態勢にも**余裕**が。

★多摩地域にアッパーミドル以上になり得る人材を
受け入れることは地域の発展につながるのではないか

27

最後に



多摩地域への提言▶多摩市と他の市の統計比較

多摩市の人口割合

総人口：148,084人
外国人人口：3,669人(約2.5%)
中国人人口：1,307人(約0.8%)

千代田区の人口割合

総人口：68,473人
外国人人口：4,108人(約6.0%)
中国人人口：2,247人(約3.3%)

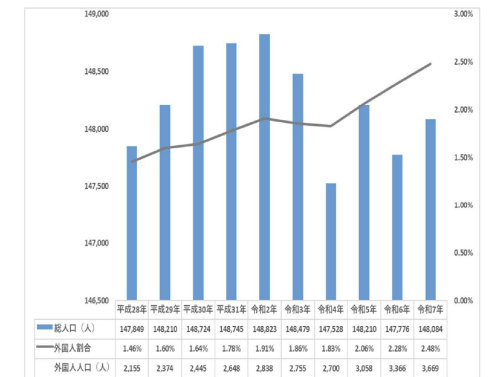


図1.多摩市の総人口と外国人住民数の割合の推移

[1]多摩市「令和7(2025)年3月多摩市」(「多摩市多文化共生推進基本方針」
<https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/017/078/tabunka.pdf>、2025年3月最終更新)
[2]東京都の統計「国籍・地域別外国人人口(令和7年1月1日現在) - 東京都の統計」
(「第3表 区市町村、国籍・地域別外国人人口(令和7年1月1日現在)」
<<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/gaikoku/2025/ga25ef0300.pdf>>、2025年1月1日最終更新)
[3]東京都の統計「東京都の人口(推計) - 東京都の統計」(「東京都の人口(推計) - 東京都の統計」
<<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/suikai/2025/js251f0100.pdf>>、2025年1月1日最終更新)

28



多摩地域への提言

外国人との交流の機会が学部生の留学生に対しての印象を大きく向上させる機会に。

多摩地域にもこの結果より反映できるのではないかと、

★言語の壁に配慮し、

音楽やスポーツなどのイベント開催

一方、交流の機会の多さは留学生の多摩地域に残りたいという欲を掻き立てることにはつながらない

舛友氏やバートル先生のインタビューからもあったようにこちら側から関係を築くためのイベントの開催も必要

★食を使った異邦人がアットホーム感を感じられるようなイベント開催を

29



多摩地域への提言

日本人や学部生が留学生に対していい印象を持つ企画と留学生が日本に対していい印象を持つ、親しみを持ってもらうという

双方向に対してのイベントの必要性

より多くの人に多摩地域の魅力に気づいてもらうためのイベント企画、教育環境の更なる充実そしてイベントや魅力の発信の必要性

30



多摩市「令和7（2025）年3月 多摩市」（「多摩市多文化共生推進基本方針」<https://www.city.tama.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/017/078/tabunka.pdf>、2025年3月最終更新）閲覧日04/12/2025

東京都の統計「国籍・地域別外国人人口（令和7年1月1日現在）- 東京都の統計」（「第3表 区市町村、国籍・地域別外国人人口（令和7年1月1日現在）」<<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/gaikoku/2025/ga25ef0300.pdf>>、2025年1月1日最終更新）閲覧日04/12/2025

東京都の統計「東京都の人口（推計）- 東京都の統計」（「東京都の人口（推計）- 東京都の統計」<<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/jsuikei/2025/js251f0100.pdf>>、2025年1月1日最終更新）閲覧日04/12/2025

舛友雄大（2025）『潤日』東洋経済新報社

31